



シベリウスの作品から

1. 「フィンランディア」の原曲を聴きます（オンディーヌ 1997年 34:27）

Prss Celebrations Music（1899年作）タンペレフィル オイラ指揮 34:27

1899年当時 帝政ロシアの圧政により独立運動が起こっていた。11月青年フィンランド党は党の新聞の為「新聞の日」祝賀会を計画。3日目愛国歴史劇「歴史的情景」を上演。劇音楽として作曲者がヘルシンキのスエーデン劇場でヘルシンキフィルを指揮。

 - (1) 前奏曲 2:50
 - (2) ワイナミョイネンの歌 3:14

フィンランド神話では魔法と歌と詩の神。あるいは9世紀に実在した古の大英雄とされる。
 - (3) ヘンリク司教によってフィン人が洗礼を受ける 4:57

フィンランドで没したイギリス人のカトリック司教。農民に氷結の湖上で殺された。1156年
 - (4) ヨハン公の宮廷からの一場面 6:40

1393年～1443年。北欧三国の支配を強め経済的繁栄を迎え、教会・城を建造。
 - (5) 三十年戦争におけるフィン人 5:01

1618年～1648年ドイツ(神聖ローマ国)を舞台にカトリックとプロテスタント、ハプスブルク家とブルボン家の対立から始まり、宗教戦争から政治的闘争にいたる。フィンランドの兵士は三〇年戦争で勇猛果敢「ポーランドにはコサック、スエーデンにはフィン人がいた」と恐れられた。
 - (6) 憤怒 4:09

1713年～1721年。17世紀後半小氷河期で飢饉が発生 10万人以上が餓死。
1713年宗主国スエーデンは北方戦争に敗れ、スエーデンはロシアによって制圧された。
1721年フィンランドはスエーデンに返還されたが、バルト海沿岸のスエーデン領の多くが失われた。この戦争中5万人が死亡。
 - (7) フィンランドは目覚める 7:16

1900年7月パリ博覧会で独立曲として「フィンランディア」作品26を発表。
1941年「フィンランディア」の旋律に歌詞がつけられ、シベリウスは合唱曲用に編曲「フィンランディア賛歌」とした。
2. 交響曲第2番 第4楽章 朝比奈隆指揮 大阪フィル(1978年11月)

無骨で重厚、テンパニーの響き、スケールの大きな感動的演奏。少々異端かなと思いますが偉大な個性です。（13:24 ビクター）

